



NEW

# 県立病院ニュース

～病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して～

新潟県

第176号 令和5年9月 病院局発行

## 松代病院の地域包括ケア病床の運用開始！

松代病院のリハビリテーション室拡張整備工事が昨年度3月に完成し、今年度4月から6月までの約3か月の仮運用期間を経て、7月から正式に地域包括ケア病床18床・急性期一般病床21床の計39床（※）で新たに運用を開始しました。今号では、急性期一般病床50床（※）からの転換を図った導入の背景や必要とされた整備要件、さらには拡張整備工事の内容や今後の方向性などについて紹介します。 ※稼働病床

### 地域包括ケア病床転換への背景

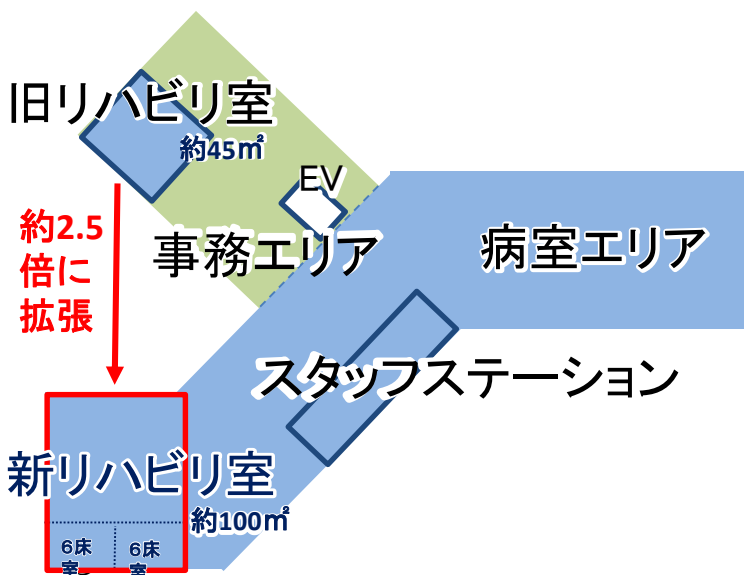
松代・松之山地区は高齢化の進行が著しい地域である一方、急性期機能の一層の強化が求められる十日町病院が近くにあるという立地の中で、その後方支援病院として各種リハビリテーションを通じた在宅復帰支援機能の更なる強化が求められていました。

このため、急性期治療を経過した患者さんや在宅療養を行っている患者さんを受け入れ、在宅復帰を支援する役割を担う地域ケア病床への転換を行うこととしました。



▲拡張整備前の旧リハビリテーション室

### ▼ 2階病棟 平面図



### リハ室拡張整備工事の内容

従来のリハ室は手狭で、また、コンクリート壁が支障物となっていました。

このため、施設基準である面積100㎡以上を満たすよう、リハビリテーション室の拡張整備を行いました。

拡張整備に際しては、小さく区切られた部屋を統合して大きな部屋を確保する必要があったため、コンクリート壁の撤去や工事場所にある部屋の院内移動が必要でした。

効果的に院内移動していくための工期分けの設定などの設計を行い、昨年度9月から約半年間、工事を実施しました。

室内は白色を基調として、明るさを感じられるよう配慮した色彩計画としており、壁を撤去したことにより多くみられるようになった柱の角には木製のコーナーガードを設置したり、床材にはクッション性のある材料に張り替えたりなど、患者さんに配慮した内装仕上げとなっています。

リハビリテーション用の専用器具も、ミニキッチン、レッドコード、オーバーヘッドフレーム、回旋運動器、運動梯子などを新設し、従来よりも患者さんの機能訓練の充実が図られるよう配慮した備品内容となっています。



▲コンクリート壁を撤去してワンルームに



▲室内は白を基調に、明るさを感じられるよう配慮



▲リハビリテーション用の専用器具が並ぶ

## 現場からの声

器具が充実し明るく広いリハビリ室となり、患者さんは「広くて明るくていいね」とリハビリ室に来ることを楽しみにされ、以前より意欲的にリハビリを受けていただいています。

リハビリスタッフについては、理学療法士に加えて、作業療法士も配置され、人数も増加したことから、患者さんだけでなく地域の方々からも喜ばれています。

リハビリ環境の改善を受け、リハビリテーション科としても、患者さんの症状や地域での暮らしに寄り添ったリハビリを提供し、在宅復帰を支援していくこととしています。

## 今後の方向性

鈴木和夫院長は、「退院後に住み慣れた地域・ご自宅で生活が送れるように、必要となる在宅医療やリハビリテーションの強化、介護サービスの調整に係る地域連携部門の強化、入退院支援の充実などが重要」と話しており、今後高齢化が進む中、十日町市の訪問看護ステーション「おむすび」との連携など、地域包括ケアシステムの構築主体である十日町市との連携を深めることにより、更なる患者さんの利便性向上に寄与することが期待されています。



### 【編集後記】

今回工事にご協力いただいた職員の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

今回の施設整備が、今後の松代・松之山地区をはじめとした十日町地域全体の方々の在宅復帰支援に大きく貢献することを祈っております。